



藤沢市では、コミュニケーションロボット「PALRO」(富士ソフト社製)が、さまざまな場面で活用されている。

# 藤沢から世界へ、宇宙へ バラエティ豊か 活力あふれる企業・大学

藤沢はさまざまな表情を持つまち。生活支援ロボット等の最先端技術を実用化する先進都市である一方、古くから製造業が盛んで、藤沢にしかないオンリーワンの企業が頑張っているまちでもある。また市内には4つの大学があり、学園都市という面もあわせ持つ。



## 日本に1台の最新機器を備える動物病院 日本大学生物資源科学部



同学部併設の動物病院は、最新鋭の設備と専門医を揃え、獣医学系大学の中でもトップクラスの実績。腫瘍外科の第一人者、浅野和之教授や日本に5名しかいない小動物外科専門医の枝村一弥准教授が在籍する。日本の動物病院では唯一の最新CTがあり、麻酔なしでの撮影も可能だ。同学部には先端食機能研究センターがあり、独創的な食品開発や研究で注目されている。



## 今なお受け継がれる先進の気風 慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

総合政策学部、環境情報学部、看護医療学部、大学院を置く。最先端ITと自然が調和する未来型キャンパスで、IoT、地方創生など先進的・学際的な教育研究を展開している。



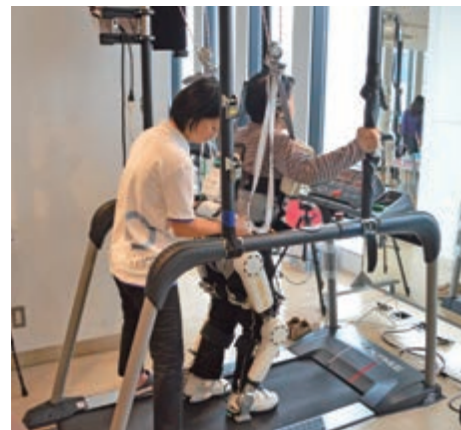
## 外国人観光客のおもてなしをサポート 多摩大学グローバルスタディーズ学部

英語と観光に力を入れている。2015年、藤沢市、藤沢市観光協会と協定を結び、外国人観光客の受け入れ体制づくりに協力。2016年2月より、市内飲食店の多言語メニュー作りをサポートしている。



## 最新ロボットスーツにWHOも注目 湘南ロボケアセンター

さがみロボット産業特区のシンボル施設として2013年12月に開設。人が身体を動かそうとするときに、脳から筋肉に伝わる微弱な信号を読み取り、装着者の意思に従った動作をアシストする「ロボットスーツHAL」を使ったトレーニングができる。「HAL」を使うことで、体が不自由な人が、自分では不可能だった動きが徐々にできるようになる。センターには300名以上が登録する。世界初のサイボーグ型ロボット「HAL」を使ったこの施設には、各国大使やWHOをはじめ国内外から年間、数十団体が視察に訪れる。



## どこにもない! メイドインフジサワ

### 「あかつき」にも採用されたグリース 協同油脂

家電製品や自動車、新幹線、工場の設備・機械など、摩擦や摩耗を防ぐために使われるグリース。その国内シェアNo.1の会社が藤沢にある。創業は1936年。製鉄、自動車と、時代を支えた産業の黒子役としてシェアを伸ばし、世界トップクラスの技術力、品質の高さを誇る同社の高性能グリースは、東京スカイツリーの高層エレベーターや金星探査機「あかつき」にも採用されている。



### 春巻きだけを作り続ける スワロー食品

1974年創業。スーパー、コンビニエンスストア、外食産業からの要望に応じ、オーダーメイドで、年間約70種類、8,400~8,500万本の春巻きを生産。「巻いておいしいものなら何でも作る」と自信を見せる。大量生産には向かない直火釜製法によりシャキシャキとした食感の餡を生み出し、きめ細かななめらかな皮で包み込む。機械で作りながらも手作りしと変わらぬおいしさを再現するノウハウは他の追随を許さない。



### 細部にこだわったドールが女性に大人気 アゾンインターナショナル

ファッションドールの企画・デザインから制作・販売まで一貫して行う。価格は7,000円~5万円程だが、熱烈なコレクターにより製品は完売状態が続く。前身はスカーフの型染工場。大手の人形メーカーから洋服の制作を頼まれたことが、オリジナルドールの制作につながった。海外で直販をしていないにもかかわらず、外国にもファンサイトが多く存在する。



## 「子どもが安心して遊べるまち」を技術で実現 Fujisawaサスティナブル・スマートタウン



2014年オープン。最新の技術を使い、エネルギーの自給自足や省エネなど、環境に配慮した街を設計。



見学者は1万人を超え、うち1割が国外からの視察だ。住民に特に好評なのが安全面。大通りからの入口を数カ所に絞り、見守りカメラや街路灯、スタッフによる巡回で死角が少ない街を目指す。湾曲する道路や歩行者専用の通路で、交通事故が起きない工夫もしている。



## 工学部をもつ藤沢唯一の大学 湘南工科大学



さがみロボット産業特区と連携し、2013年、「先進ロボット研究センター」を設立。高齢者の見守りや歩行支援につながるロボットなどを研究する。副センター長の尾崎文夫教授は、東芝と共同研究する人間型コミュニケーションロボット「地平アイコ・ジュンコ」のソフトを手がけた。また、同大には、サーフボードの製作・試乗を通じ製品開発の手順を学ぶ施設もある。

